

(一七七七)

二〇七 安永六年七月 江戸の館煙草問屋取引き変更につき口上

書〔B〕

口上書

一其御地御荷物内金之儀、先年者少分之儀故、利足もうしうけずいたし不も申請しんせい一致いっし来候処、年々多分まかりなりニ罷成、当表問屋共とうおもと「手前限てまへかぎニ而者間合まにあひ不な申候付、出来秋より冬来春へ掛、おこしわりのためかぐのいとして「他借金仕候而御用違候様罷成、近年はなはだ甚及し難渋がた、で「問屋共商売相続出来兼候いかねニ付、此度惣御荷主衆中様へ」御頼申上候、八月より来三月晦日迄、金百両ニ付「壹ケ月」利足金壹両宛之割合ヲ以、拾両ニ付六匁もんめ、壹両ニ付六分宛ぶん、しきりおして「仕切表ニ而申請候、四月おとす七月晦日迄者、他借不な仕間合候」節故、四月おとす七月晦日迄者利足不な申請しんせい候、且亦古葉かつまた「惣仕切勘定之節、内金過上残金罷成候分者、新規ニ々々」書替、八月おとす三月晦日迄之利足申請候、右之趣御得心之上ごとくしん「御取引被な成可な被な下候、為な御断ごたん一如いごとく是御座候、以上

安永六年酉七月

館問屋中図

館御荷主衆中様